

感染症発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況 - 2015年 -

尾関由姫恵 細野真弓 山田さゆり 棚倉雄一郎 山田文也 岸本剛

Infectious disease surveillance reports in Saitama Pref. in 2015

Yukie Ozeki, Mayumi Hosono, Sayuri Yamada, Yuichiro Tanakura, Fumiya Yamada, and Tsuyoshi Kishimoto

はじめに

感染症発生動向調査事業は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」の第12条から16条に基づく全国サーベイランスである。サーベイランスの対象疾患は一類から五類感染症及び新型インフルエンザ等感染症の113疾患である。患者を診断した医師からの届出により地域的な流行の実態を早期かつ的確に把握し、その情報を速やかに地域に還元するものである。

2015年の感染症発生動向調査では、指定感染症であった中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る）及び鳥インフルエンザ（H7N9）が2015年1月21日から二類感染症に移行された。これにより、二類感染症の鳥インフルエンザの血清亜型は、既に指定されていたH5N1とH7N9の2種類となった。また、2014年に初の国内感染例が報告されたデング熱について、IgM抗体の検出は「単回の確認」から「ペア血清による抗体陽転又は抗体価の有意上昇の確認」に2015年1月21日から変更された。

対象および方法

届出対象疾患を表1-1, 2に示す。埼玉県基幹情報センターとしてさいたま市、川越市及び越谷市を含む全域から収集した届出を対象とし、集計はNESIDシステム内の感染症発生動向調査システムの数値を用いた。なお、全数把握対象疾患は診断日が2015年1月1日から2015年12月31日に属する届出を、定点把握対象疾患のうち、週単位報告対象疾患は2015年第1週（2014年12月29日～2015年1月4日）から第53週（2015年12月28日～2016年1月3日）まで、月単位報告対象疾患は2015年1月から12月までの報告を対象とした。

結果

1. 全数把握対象疾患の発生状況

一類から三類感染症の届出数を表2-1に、四類感染症を表2-2に、五類全数把握対象疾患を表2-3にそれぞれ示した。

(1) 一類から三類感染症

一類感染症は、疑似症を含め届出はなかった。二類感染

症は、結核1,273例の届出があり、前年の1,392例より減少した。類型別では、患者903例、無症状病原体保有者（潜在性結核感染症）358例、疑似症11例、感染症死亡者の死体1例の届出があった。患者の届出は、全体の70.9%を占め、前年の66.7%より4.2ポイント増加した。急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9）の届出はなかった。

三類感染症は、細菌性赤痢6例、腸管出血性大腸菌感染症167例、腸チフス1例、パラチフス1例の届出があり、腸管出血性大腸菌感染症の届出数は、前年の265例より減少した。また、前年に引き続きコレラの届出はなかった。

1) 細菌性赤痢

細菌性赤痢は、男3例、女3例の計6例の届出があり、前年の2例より増加した。類型別では患者5例、無症状病原体保有者1例で、いずれも診断方法は分離・同定による病原体の検出で、全て菌種は *Shigella sonnei* であった。届出は5月に2例、6月に1例、8月に2例、11月に1例あり、推定感染地域は国外が4例、国内が2例であった。

2) 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、男84例、女83例の計167例の届出があり、前年の265例より減少した。男女比は1:1で、年齢階級別では、10歳未満から80歳代に分布し、10歳未満が42例と最も多く、次いで10歳代が27例、20歳代が23例であった。年間を通して届出はあり、月別の届出数で多かったのは、8月の48例、7月の36例、6月の31例であった。病型別では、患者122例、無症状病原体保有者45例であった。また、HUS患者は10歳未満2例、10歳代1例の計3例であった。血清型別では、O157が104例と最も多く全体の62.3%、次いでO26の51例30.5%であった。その他の血清型の検出は散発的で、O91が4例、O111が3例、O186が2例、O5、O145、O165が各1例であった。

3) 腸チフス

腸チフスは、3月に40歳代の女1例の届出があった。類型は患者で、診断方法は分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域はウガンダであった。

表 1-1 感染症法における届出対象疾患

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	(*) 疑似症	無症状病原 体保有者	定点種 別	時期	内容 (**)
一類	エボラ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	クリミア・コンゴ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	痘そう	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	南米出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ペスト	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	マールブルグ病	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ラッサ熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
二類	急性灰白髄炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	結核	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ジフテリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウ イルスであるものに限る)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	中東呼吸器症候群(病原体がペー タコロナウイルス属 MERSコロナウイルスであるもの に限る)	○	○	×	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H7N9)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
三類	コレラ	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	細菌性赤痢	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸管出血性大腸菌感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸チフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	パラチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
四類	E型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ウエストナイル熱(ウエストナイル 脳炎を含む)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	A型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	エキノコックス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	黄熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オウム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オムスク出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	回帰熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	キャサナル森林病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Q熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	狂犬病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	コクシジオイデス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	サル痘	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症熱性血小板減少症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腎症候性出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	西部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ダニ媒介性脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	炭疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	チクングニア熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	つつが虫病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	デング熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	東部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を 除く)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ニパウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ハンタウイルス肺症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Bウイルス病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ブルセラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ペネズエラウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ヘンドラウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	発しんチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
ボツリヌス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
マラリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
野兔病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
ライム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
リッサウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
リフトバレー熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
類鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
レジオネラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
レプトスピラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
ロッキー山紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	

*疑似症：明らかに当該感染症の症状を有しているが、病原体診断の結果が未定の者を指す

**内容：a：氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、その他(保護者の住所氏名)

b：年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域

c1：年齢、性別

c2：年齢、性別、原因病原体の名称、検査方法

4) パラチフス

パラチフスは、2月に40歳代の女1例の届出があった。類型は患者、診断方法は分離・同定による病原体の検出で、推定感染地域はミャンマーであった。

3) オウム病

オウム病は、1月に60歳代の女1例の届出があった。診断方法は間接蛍光抗体法による血清抗体の検出で、感染経路及び推定感染地域の特定はできなかった。

表2-1 一類、二類、三類感染症の届出数

	疾患名	埼玉県		
		2015年	2014年	2013年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ベスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	1273	1392	1315
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0
	細菌性赤痢	6	2	4
	腸管出血性大腸菌感染症	167	265	191
	腸チフス	1	2	5
	パラチフス	1	1	1

(2) 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎7例、A型肝炎16例、オウム病1例、チクングニア熱1例、デング熱13例、マラリア1例、レジオネラ症90例の計129例の届出があった。

1) E型肝炎

E型肝炎は、男5例、女2例の計7例の届出があり、前年の12例より減少した。性年齢階級別では、男が60歳代4例、50歳代1例、女は40歳代、60歳代が各1例であった。届出は散発的で、患者間の関連性は認められなかった。類型はいずれも患者、診断方法は血清IgA抗体の検出であった。推定感染経路は経口感染が4例、不明が3例で、推定感染地域は国内が5例、不明が2例であった。

2) A型肝炎

A型肝炎は、男12例、女4例の計16例の届出があり、前年の8例より増加した。性年齢階級別では、男が50歳代3例、10歳代、20歳代、30歳代、40歳代が各2例、80歳代1例で、女は30歳代2例、40歳代、50歳代が各1例であった。届出は、5月と12月を除く各月にあり、4月、9月に各3例、2月、6月に各2例と複数の届出があったが、患者間の関連性は認められなかった。診断方法はいずれも血清IgM抗体の検出であった。推定感染経路は経口感染が14例、不明が2例であった。推定感染地域は国内が12例、国外が4例であった。

4) チクングニア熱

チクングニア熱は、届出対象疾患に指定された2011年以降初めて9月に20歳代の女1例の届出があった。診断方法は血清IgM抗体の検出で、推定感染地域はグアテマラであった。

5) デング熱

デング熱は、男8例、女5例の計13例の届出があり、前年の14例より減少した。性年齢階級別では、男が20歳代、60歳代が各2例、30歳代、40歳代、50歳代、70歳代が各1例、女は30歳代が2例、20歳代、50歳代、60歳代が各1例であった。病型別では、全例がデング熱で、デング出血熱の届出はなかった。診断方法は、NS1抗原の検出が4例、PCR法による病原体の検出が2例、複数の検査が実施されていたものとして、血清IgM抗体(1例はペア血清での有意上昇)の検出及びNS1抗原の検出が2例、NS1抗原の検出及びPCR法による病原体の検出が5例であった。推定感染地域は、いずれも国外であった。

6) マラリア

マラリアは、11月に男50歳代1例の届出があり、前年の3例より減少した。病型は三日熱で、診断方法は血液検体の鏡検による病原体の検出であった。推定感染地域はパキスタンであった。

7) レジオネラ症

レジオネラ症は、男75例、女15例の計90例の届出があり、前年の55例より大きく増加した。性年齢階級別では、男は60歳代26例、70歳代21例、50歳代16例、80歳代8例、90歳代2例、20歳代、40歳代各1例、女は70歳代7例、80歳代、90歳代各3例、60歳代2例の届出があった。全例が患者で、病型別では、肺炎型89例、ポンティアック熱型1例であった。年間を通して届出があり、月別の届出数で多かったのは、9月の19例、7月の15例であった。診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が88例、分離同定による病原体の検出、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出が各1例であった。推定感染地域は、国内88例、国外1例、不明1例で、国内感染例のうち県内は68例であった。共通の感染地域が疑われた患者は認められなかった。

(3) 五類感染症

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢30例、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)6例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症40例、急性脳炎28例、クロイツ

フェルト・ヤコブ病 10 例, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 12 例, 後天性免疫不全症候群 35 例, ジアルジア症 4 例, 侵襲性インフルエンザ菌感染症 14 例, 侵襲性髄膜炎菌感染症 2 例, 侵襲性肺炎球菌感染症 84 例, 水痘(入院例) 10 例, 梅毒 103 例, 播種性クリプトコックス症 7 例, 破傷風 2 例, バンコマイシン耐性腸球菌感染症 9 例, 風しん 8 例, 麻しん 2 例, 薬剤耐性アシネトバクター感染症 1 例の計 407 例の届出があった。

1) アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は, 男 26 例, 女 4 例の計 30 例の届出があり, 前年の 41 例より減少した。性年齢階級別では, 男では 30 歳代から 70 歳代に分布し, 60 歳代 11 例が最も多く, 次いで 40 歳代 7 例の順であった。女は 40 歳代 3 例, 50 歳代 1 例であった。11 月を除く各月に届出があり, 2 月の 5 例が最も多かった。病型別では, 腸管アメーバ症 26 例, 腸管外アメーバ症 3 例, 腸管及び腸管外アメーバ症 1 例であった。診断方法は, 腸管アメーバ症で鏡検による病原体の検出 21 例, 血清抗体の検出 2 例, 鏡検による病原体の検出及び血清抗体の検出が 3 例であった。腸管外アメーバ症は, 血清抗体の検出 2 例, 鏡検による病原体の検出 1 例, 腸管及び腸管外アメーバ症では, 鏡検による病原体の検出及び血清抗体の検出であった。

推定感染経路は, 経口感染 8 例, 性的接触 6 例, その他 1 例, 不明 15 例で, 性的接触の内訳は異性間性的接触 2 例, 同性間性的接触 1 例, 異性同性不明 3 例であった。推定感染地域は, 国内 25 例, 国外 1 例, 不明 4 例であった。

2) ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)

ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)は, B型肝炎 5 例, その他 1 例の計 6 例の届出があり, 前年の 11 例より減少した。

B型肝炎は, いずれも男で, 年齢階級別では, 20 歳代 2 例, 30 歳代, 50 歳代, 60 歳代が各 1 例であった。届出は, 3 月に 2 例, 6 月, 10 月, 12 月に各 1 例, 診断方法は, 全例が血清 IgM 抗体(HBc 抗体)の検出であった。推定感染経路は, いずれも性的接触で, その内訳は, 異性間性的接触 4 例, 同性間性的接触 1 例であった。また, 推定感染地域は国内が 4 例, 不明が 1 例であった。

その他ウイルス性肝炎は, エプスタイン・バーウイルス(EBV)肝炎が 10 月に 40 歳代の男 1 例の届出があった。診断方法は EBV-IgM 抗体の検出で, 感染経路及び推定感染地域の特定はできなかった。

3) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は, 男 23 例, 女 17 例の計 40 例の届出があった。性年齢階級別では, 男女ともに 70 歳代が最も多く, 男は 30 歳代から 90 歳代, 女は 20 歳代から 90 歳代に分布した。診断方法は通常無菌的であるべき検体からの分離同定による病原体の検出が 14 例, 通常無菌的ではない検体からの分離同定による病原体の検出が 29 例であった(重複例あり)。

4) 急性脳炎

急性脳炎は, 男 17 例, 女 11 例の計 28 例の届出があった。性年齢階級別では, 男女ともに 10 歳未満が最も多く, 男 10 例, 女 7 例であった。その他の年齢階級は, 男では 20

表 2-2 四類感染症の届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	2015年	2014年	2013年		2015年	2014年	2013年
E型肝炎	7	12	7	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)	0	0	0
ウエストナイル熱	0	0	0	ニパウイルス感染症	0	0	0
A型肝炎	16	8	4	日本紅斑熱	0	0	0
エキノコックス症	0	0	0	日本脳炎	0	0	0
黄熱	0	0	0	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
オウム病	1	0	0	Bウイルス病	0	0	0
オムスク出血熱	0	0	0	鼻疽	0	0	0
回帰熱	0	0	0	ブルセラ症	0	1	0
キャサナル森林病	0	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
Q熱	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
狂犬病	0	0	0	発しんチフス	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0	ボツリヌス症	0	0	0
サル痘	0	0	0	マラリア	1	3	1
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	野兔病	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0	ライム病	0	1	0
西部ウマ脳炎	0	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0
ダニ媒介性脳炎	0	0	0	リフトバレー熱	0	0	0
炭疽	0	0	0	類鼻疽	0	0	1
チクングニア熱	1	0	0	レジオネラ症	90	55	42
つつが虫病	0	1	0	レプトスピラ症	0	0	0
デング熱	13	14	7	ロッキー山紅斑熱	0	0	0
東部ウマ脳炎	0	0	0				

歳代から80歳代が各1例、女では20歳代、50歳代、70歳代、80歳代が各1例であった。届出は8月を除く各月にあり、ヘルペスウイルス4例、インフルエンザウイルス3例、RSウイルス、アデノウイルスが各2例、ロタウイルス、コクサッキーウイルスが各1例から検出され、病原体不明は15例であった。推定感染地域は、いずれも国内であった。

5) クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)

CJDは、男5例、女5例の計10例の届出があり、前年の6例より増加した。性年齢階級別では、男で60歳代、70歳代各2例、50歳代1例、女は70歳代、80歳代各2例、50歳代1例であった。病型別では、古典型CJDが9例、家族性CJDが1例であった。診断の確実度では、全例がほぼ確実であった。

表 2-3 五類感染症の届出数(全数把握)

疾患名	埼玉県		
	2015年	2014年	2013年
アメーバ赤痢	30	41	39
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	6	11	6
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症★	40	3	-
急性脳炎	28	27	33
クリプトスポリジウム症	0	1	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	10	6	10
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	12	10	6
後天性免疫不全症候群	35	45	43
ジアルジア症	4	1	2
侵襲性インフルエンザ菌感染症★★	14	10	2
侵襲性髄膜炎菌感染症★★	2	2	1
侵襲性肺炎球菌感染症★★	84	76	44
水痘(入院例)★	10	3	-
先天性風しん症候群	0	0	3
梅毒	108	51	39
播種性クリプトコックス症★	7	4	-
破傷風	2	5	4
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	9	6	8
風しん	8	9	608
麻しん	2	27	26
薬剤耐性アシネトバクター感染症★	1	2	-

★ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘(入院例)、播種性クリプトコックス症および薬剤耐性アシネトバクター感染症は2014年9月19日から届出の対象
 ★★ 侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症および侵襲性インフルエンザ菌感染症は2013年4月1日から届出の対象

6) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、男9例、女3例の計12例の届出があり、前年の10例より増加した。性年齢階級別では、男で60歳代、80歳代が各2例、10歳未満、30歳代、40歳代、50歳代、70歳代が各1例、女は60歳代、70歳代、80歳代が各1例であった。診断方法は全例が分離・同定による病原体の検出で、血清群は、A群が7例、G群が4例、B群が1例であった。推定される感染経路は、創傷感染5例、飛沫感染が1例、創傷感染もしくは接触感染が1例、不明5例で、推定感染地域は全例が国内であった。

7) 後天性免疫不全症候群(AIDS)

AIDSは、男30例、女5例の計35例の届出があり、前年の45例より減少した。性年齢階級別では、男で20歳代が10例と最も多く、次いで40歳代の9例、30歳代の7例で、20歳代から70歳代に分布した。女は40歳代が3例、50歳代が2例であった。病型別では、無症状病原体保有者が17例、AIDS患者(AIDS指標疾患発症者)が13例、その他(AIDS指標疾患以外の発症者)が5例であった。届出は年間を通してあり、2月を除く各月にあった。推定される感染経路では、性的接触が26例、性的接触以外では静注薬物使用が1例、不明が8例であった。また、性的接触の内訳は、異性間が男6例、女3例の計9例、同性間が男16例、異性・同性間が男1例であった。

8) ジアルジア症

ジアルジア症は、男3例、女1例の計4例の届出があり、前年の1例より増加した。性年齢階級別では、男が10歳未満、30歳代、70歳代の各1例、女は20歳代であった。診断方法はいずれも鏡検による病原体の検出で、推定感染経路は経口感染、水系感染、性的接触、不明が各1例、推定感染地域は国内が2例、国外が2例であった。

9) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、男7例、女7例の計14例の届出があり、前年の10例より増加した。性年齢階級別では、男が80歳代の3例、20歳代、40歳代、50歳代、70歳代の各1例、女は70歳代の2例、10歳未満、30歳代、40歳代、60歳代、90歳代の各1例であった。診断方法は、全例で分離同定による病原体の検出が行われていたほか、2例でPCR法による病原体遺伝子の検出も行われていた。ヒブワクチン接種歴は、有り1例、無し3例、不明10例であった。推定感染地域はいずれも国内であった。

10) 侵襲性髄膜炎菌感染症

侵襲性髄膜炎菌感染症は、6月に10歳代と40歳代の男2例の届出があり、前年と同数であった。診断方法は、いずれも血液からの分離・同定による病原体の検出で、血清群はY群が1例、不明(未実施)が1例であった。推定感染地域は国内であった。

11) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は、男59例、女25例の計84例の届出があり、前年の76例より増加した。性年齢階級別では、男は10歳未満と60歳代の14例が最も多く、次いで70歳代の11例の順であった。女は60歳代、70歳代の各6例が多い。診断方法では、分離・同定による病原体の検出が71例、病原体抗原の検出が2例で、複数の検査が実施されていたものとして、分離・同定による病原体の検出及び病原体抗原の検出が9例、分離・同定による病原体の検出及び検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出が2例で

あった。侵襲性を示す症状では、菌血症が最も多く74例で肺炎等別の症状との合併がみられ、菌血症のみの発症は1例であった。予防接種歴は、有りが21例で10歳未満が15例、70歳代、80歳代が各2例、40歳代、90歳代が各1例、無しは21例、不明42例で、推定感染地域は国内が82例、国外1例、不明1例であった。

12) 水痘(入院例)

水痘(入院例)は、男4例、女6例の計10例の届出があった。性年齢階級別では、男は10歳未満が3例、30歳代が1例、女は10歳未満から70歳代に分布した。病型別では、検査診断例、臨床診断例が各5例で、検査診断例の診断方法は、血清IgM抗体の検出が3例、PCR法による病原体遺伝子の検出が1例、血清IgM抗体の検出及びPCR法による病原体遺伝子の検出が1例であった。推定感染経路は、水痘患者との接触が1例、不明が9例であった。

13) 梅毒

梅毒は、男69例、女39例の計108例の届出があり、前年の51例より大きく増加した。性年齢階級別では、男が10歳代から60歳代に分布し、40歳代19例、20歳代18例、30歳代16例の順に多く、女は先天梅毒を除くと10歳代から50歳代に分布し、20歳代の18例が最も多かった。病型別では、男は早期顕症梅毒(I期)が39例、早期顕症梅毒(II期)が12例、晩期顕症梅毒が1例、無症状病原体保有者が17例で、女は早期顕症梅毒(I期)が5例、早期顕症梅毒(II期)が19例、先天梅毒が1例、無症状病原体保有者が14例で、男女ともに顕症梅毒が無症状病原体保有者の届出数を大きく上回った。推定感染経路は、男で性行為感染が64例、不明が5例、女で性行為感染が34例、母子感染(胎内)が1例、不明が4例であった。性行為感染の内訳は、異性間性的接触が男39例、女30例、同性間性的接触が男12例、女1例、異性・同性不明が男13例、女3例であった。また、推定感染地域は国内が99例、国外が3例、不明が6例であった。

14) 播種性クリプトコックス症

播種性クリプトコックス症は、男6例、女1例の計7例の届出があった。性年齢階級別では、男は60歳代から90歳代に分布し、70歳代が3例と多く、女は50歳代であった。診断方法は全例で分離・同定による病原体の検出が行われていたほか、ラテックス凝集法による荚膜抗原の検出が1例、病理組織学的診断が1例で行われていた。免疫不全を来す基礎疾患又は症状は、ステロイド内服が4例、糖尿病が1例、詳細不明が1例であった。鳥類の糞等との接触が疑われた例はなかった。

15) 破傷風

破傷風は、4月に30歳代女1例、6月に50歳代女1例の計2例の届出があり、前年の5例より減少した。いずれも

診断方法は臨床決定、破傷風含有ワクチンの接種歴は不明であった。感染原因・感染経路は農作業1例、不明1例、推定感染地域は2例とも国内であった。

16) バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症

VRE感染症は、男3例、女6例の計9例の届出があり、前年の6例より増加した。性年齢階級別では、男が60歳代、80歳代、90歳代が各1例、女は70歳代3例、80歳代2例、90歳代1例であった。診断方法は、全例が分離・同定による病原体の検出で、MIC(Minimum inhibitory concentration)測定が行われていた。推定感染地域は全例が国内であった。

17) 風しん

風しんは、男5例、女3例の計8例の届出があり、前年の9例より減少した。性年齢階級別では、20歳未満の階級で男女とも10歳未満が各1例、20歳以上の階級では男が30歳代2例、20歳代、50歳代が各1例、女が30歳代、40歳代が各1例であった。病型別では、検査診断例5例、臨床診断例3例であった。検査診断例の診断方法は、血清IgM抗体の検出が4例、血清IgM抗体の検出及びペア血清での抗体の検出が1例であった。予防接種歴は、有り2例、無し3例、不明3例で、接種有りのうち2回接種は1例であった。推定感染地域はいずれも国内であった。

18) 麻しん

麻しんは、2月に10歳未満の女1例、5月に40歳代の女1例、計2例の届出があり、前年の27例より減少した。いずれも病型は修飾麻しんで、診断方法は血清IgM抗体の検出であった。予防接種の接種歴は、10歳未満の女が1回目接種歴有り、2回目不明、40歳代の女では接種歴不明であった。いずれも推定感染経路は不明、推定感染地域は国内であった。

19) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

薬剤耐性アシネトバクター感染症は、2月に70歳代の男1例の届出があり、前年の2例より減少した。診断方法は通常無菌的ではない検体からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染経路は院内感染、推定感染地域は国内であった。

(4) 獣医師が届出を行う感染症

獣医師が届出を行うエボラ出血熱(サル)、マールブルグ病(サル)、ペスト(プレーリードッグ)、重症急性呼吸器症候群(イタチアナグマ・タヌキ・ハクビシン)、細菌性赤痢(サル)、ウエストナイル熱(鳥類)、エキノコックス症(犬)、結核(サル)、鳥インフルエンザH5N1又はH7N9(鳥類)、中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ)の10疾患の届出はなかった。

2. 定点把握対象疾患の発生状況

五類感染症定点把握対象疾患の週単位報告の週別報告数、定点当たり報告数を表3-1, 2に示した。また、月単位報告の月別報告数、定点当たり報告数を表4に、性年齢階級別報告数を表5に示した。

(1) 内科・小児科定点把握対象疾患の動向

1) インフルエンザ

2015年の第1週～53週の累積報告患者総数は42,038例、定点当たり報告総数は170.19で前年と比べ大きく減少した。年当初の定点当たり報告数は、前年末に観察されたピークから減少に転じたものの多い状況が2月まで続いた。2015年の定点当たり報告数の最大値は第2週(1/5～11)の27.84で、年末には流行の兆しが観察されなかった。報告

患者の年齢は、10歳未満が全体の46.3%を占め、60歳以上は7.1%であった。

(2) 小児科定点把握対象疾患の動向

1) RSウイルス感染症

2015年第1週～53週の累積報告患者数は4,585例、定点当たり報告患者総数は29.20で、前年を上回った。前年冬の大きな流行は、3月まで続いた。2015年の流行の開始は9月で、ピークは第49週(11/30～12/6)に観察され、その定点当たり報告数は2.45であった。報告患者の年齢は、1歳が最も多く1歳以下で全体の75.1%を占めた。

2) 咽頭結膜熱

2015年第1週～53週の累積報告患者数は4,386例、定点

表3-1 定点対象疾患の推移・患者数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎	インフル(入院)
15-1	12/29	4,702	105	20	81	324	64	12	28	16	-	2	20	-	4	-	-	-	-	-	1	26
15-2	01/05	6,738	150	50	277	1,436	160	28	130	69	1	1	70	2	24	-	1	4	1	3	34	34
15-3	01/12	5,639	91	39	280	1,226	87	13	105	82	-	1	46	1	16	-	1	3	-	-	1	9
15-4	01/19	6,219	83	34	409	1,424	74	13	119	84	-	4	37	1	21	-	1	2	-	-	-	23
15-5	01/26	4,962	90	32	410	1,304	57	20	112	69	-	2	55	-	8	-	1	2	-	-	1	13
15-6	02/02	3,591	68	44	479	1,298	85	34	100	79	1	4	34	1	7	-	-	4	1	2	7	7
15-7	02/09	2,243	35	43	503	1,333	76	17	79	77	1	1	59	-	16	-	-	6	-	-	3	5
15-8	02/16	1,567	42	47	547	1,398	138	11	66	76	1	-	78	-	17	1	-	4	-	-	7	7
15-9	02/23	1,136	44	46	572	1,451	78	13	105	87	-	1	55	1	13	-	1	2	-	-	5	3
15-10	03/02	836	33	48	520	1,445	112	22	123	82	3	2	80	1	12	-	1	6	-	-	8	3
15-11	03/09	746	29	57	552	1,447	105	25	146	90	-	5	86	-	17	-	3	3	3	11	1	1
15-12	03/16	778	32	50	502	1,302	97	22	128	74	2	1	76	1	7	-	1	3	-	-	7	2
15-13	03/23	403	26	49	456	1,262	93	21	143	81	2	3	118	-	18	-	-	8	1	7	-	-
15-14	03/30	352	19	35	276	1,104	133	15	137	98	1	3	76	1	27	-	-	2	-	-	11	1
15-15	04/06	278	20	47	395	1,159	80	15	135	87	3	3	90	2	24	-	1	4	-	-	7	1
15-16	04/13	337	17	43	471	1,156	77	41	211	98	2	7	88	1	22	1	-	4	-	-	10	2
15-17	04/20	327	22	74	573	1,168	74	79	235	131	3	11	96	-	25	-	1	5	-	-	8	1
15-18	04/27	199	15	88	519	1,101	97	101	300	133	1	17	96	2	20	-	2	1	-	-	5	1
15-19	05/04	83	3	60	302	713	109	64	111	70	1	15	119	-	13	-	-	2	1	1	-	-
15-20	05/11	77	3	95	682	1,297	118	110	256	118	2	15	116	1	29	-	-	1	2	4	-	-
15-21	05/18	37	4	140	675	1,313	99	187	255	127	2	21	143	1	32	-	-	3	2	4	-	-
15-22	05/25	17	5	145	685	1,326	113	208	292	112	3	34	173	3	28	-	1	1	-	-	-	-
15-23	06/01	7	6	139	704	1,203	107	248	221	134	2	50	141	-	28	-	1	2	-	-	4	-
15-24	06/08	6	5	186	762	1,485	89	332	362	121	-	66	135	1	38	-	1	4	2	1	1	1
15-25	06/15	7	2	168	628	1,185	111	435	310	125	-	105	175	2	55	-	-	6	2	-	-	-
15-26	06/22	1	4	139	609	1,127	76	795	404	138	-	178	141	2	42	-	-	5	2	-	-	-
15-27	06/29	5	5	173	634	975	109	1,034	295	114	1	236	179	1	65	1	-	6	-	-	-	-
15-28	07/06	2	4	125	541	1,017	92	2,014	390	103	4	351	168	1	49	-	2	5	-	-	-	-
15-29	07/13	3	11	126	460	894	91	3,223	394	115	5	533	167	-	43	-	2	5	2	-	-	-
15-30	07/20	2	7	117	317	664	79	2,942	222	106	3	564	142	1	43	-	2	5	-	1	-	-
15-31	07/27	2	12	114	321	718	58	2,660	174	95	-	558	196	2	40	-	3	3	-	-	-	-
15-32	08/03	2	20	117	215	630	68	2,020	150	99	1	451	148	1	33	1	2	4	-	-	-	-
15-33	08/10	2	10	118	156	364	22	968	84	53	-	203	119	-	25	-	-	4	-	-	-	-
15-34	08/17	-	10	100	181	472	42	899	128	79	1	203	147	2	49	-	1	3	-	1	-	-
15-35	08/24	4	30	70	210	549	31	871	141	122	5	207	144	1	49	-	-	6	-	-	-	-
15-36	08/31	2	66	50	251	577	35	804	152	110	4	180	114	-	50	-	-	8	-	-	-	-
15-37	09/07	2	95	59	247	602	41	735	121	104	1	152	142	3	43	1	1	6	1	-	-	-
15-38	09/14	2	97	71	268	584	38	686	91	120	6	124	118	-	41	1	3	6	-	-	-	-
15-39	09/21	3	51	43	148	338	39	377	51	50	-	59	91	-	29	-	1	3	-	-	-	2
15-40	09/28	3	119	59	303	549	56	379	104	92	1	68	155	-	43	-	4	4	-	-	-	-
15-41	10/05	7	160	64	339	554	41	294	91	95	1	41	115	1	38	2	1	9	-	-	-	1
15-42	10/12	18	151	58	306	532	73	162	70	78	2	16	144	1	29	-	1	7	-	-	-	-
15-43	10/19	19	218	64	432	675	63	140	93	76	8	18	167	-	40	-	-	13	-	-	-	-
15-44	10/26	23	198	60	428	692	73	63	105	90	1	8	112	1	27	-	-	6	-	-	-	-
15-45	11/02	26	205	80	430	785	92	70	111	65	2	8	145	1	24	-	-	16	-	-	-	1
15-46	11/09	44	250	75	497	930	119	52	121	87	3	9	167	1	50	1	1	7	-	-	-	-
15-47	11/16	45	291	91	498	1,070	134	51	175	82	6	9	131	-	31	-	-	5	-	-	-	-
15-48	11/23	26	274	85	469	1,066	170	30	144	78	1	7	149	-	38	-	-	7	-	-	-	1
15-49	11/30	34	394	117	602	1,430	185	34	178	99	-	7	186	1	41	-	1	10	-	-	-	-
15-50	12/07	100	324	138	629	1,827	223	29	170	80	-	4	171	1	35	-	1	14	-	-	-	-
15-51	12/14	113	302	137	650	2,016	220	24	148	71	5	2	193	-	50	-	-	10	-	-	-	1
15-52	12/21	134	241	113	585	1,897	210	15	142	69	1	2	163	-	58	-	1	8	1	-	-	-
15-53	12/28	127	87	44	164	643	120	5	56	28	-	-	106	1	16	-	2	3	1	1	-	-
2015年計		42,038	4,585	4,386	23,150	55,037	5,033	23,462	8,714	4,818	93	4,572	6,382	44	1,642	9	46	270	22	114	146	146
2014年計		111,443	4,070	3,237	18,056	51,252	7,500	4,441	2,118	4,941	77	7,992	2,598	58	800	8	34	178	23	62	238	238
2015年/2014年比		0.4	1.1	1.4	1.3	1.1	0.7	5.3	4.1	1.0	1.2	0.6	2.5	0.8	2.1	1.1	1.4	1.5	1.0	1.8	0.6	0.6

当たり報告患者総数は27.94で、前年を上回った。4月以降漸増傾向を示し、第24週(6/8～14)に定点当たり報告数の最大値1.16が観察された以降も報告数の多い状況は8月まで続いた。11月以降再び増加し、12月には夏期流行とほぼ同等の水準にまで達した。報告患者の年齢は、1歳が最も多く1歳～4歳で全体の62.9%を占めた。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2015年第1週～53週の累積報告患者数は23,150例、定点当たり報告患者総数147.45で、前年と比べ大きく増加した。年間の変動は前年と同様であったが、年間を通じて定点当たり報告数は前年を上回った状況で推移した。定点当たり報告数の最大値は第24週(6/8～14)の4.73であり、過去5年の中で最も高い値が観察された。報告患者の年齢は、5歳が最も多く4歳～7歳で全体の53.0%を占めた。

4) 感染性胃腸炎

2015年第1週～53週の累積患者報告数は55,037例、定点当たり報告患者総数は350.55で、前年を上回った。定点当たり報告数は前年末の流行を引き継ぎ、年当初から6月まで多い状況が続いた。2015年の流行の開始は11月で、流行のピークは前年と同様に小さく、定点当たり報告数の最大値は第51週(12/14～20)の12.52であった。報告患者の年齢は、1歳が最も多く1歳～5歳で全体の50.6%を占めた。

5) 水痘

2015年第1週～53週の累積報告患者数は5,033例、定点当たり報告患者総数32.06で、前年と比べ大きく減少した。1月から7月までは大きな変動も観察されず前年よりも低い水準で推移した。10月以降緩やかに増加し、前年同様の冬期流行が11月から12月に観察された。定点当たり報告

表3-2 定点対象疾患の推移・定点当たり報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	R S ウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎	インフル(入院)
15-1	12/29	25.01	0.97	0.19	0.75	3.00	0.59	0.11	0.26	0.15	-	0.02	0.19	-	0.11	-	-	-	-	-	0.10	2.60
15-2	01/05	27.84	0.96	0.32	1.78	9.21	1.03	0.18	0.83	0.44	0.01	0.01	0.45	0.05	0.57	-	0.10	0.40	0.10	0.30	0.30	3.40
15-3	01/12	22.92	0.58	0.25	1.78	7.81	0.55	0.08	0.67	0.52	-	0.01	0.29	0.02	0.39	-	0.10	0.30	-	0.10	0.90	2.90
15-4	01/19	25.38	0.53	0.22	2.62	9.13	0.47	0.08	0.76	0.54	-	0.03	0.24	0.02	0.50	-	0.10	0.20	-	-	0.30	2.30
15-5	01/26	20.25	0.58	0.21	2.63	8.36	0.37	0.13	0.72	0.44	-	0.01	0.35	-	0.19	-	0.10	0.20	-	0.10	1.30	1.30
15-6	02/02	14.48	0.43	0.28	3.03	8.22	0.54	0.22	0.63	0.50	0.01	0.03	0.22	0.03	0.18	-	-	0.40	0.10	0.20	0.70	0.70
15-7	02/09	9.16	0.22	0.28	3.22	8.54	0.49	0.11	0.51	0.49	0.01	0.01	0.38	-	0.39	-	-	0.60	-	0.30	0.50	0.50
15-8	02/16	6.32	0.27	0.30	3.48	8.90	0.88	0.07	0.42	0.48	0.01	-	0.50	-	0.41	0.10	-	0.40	-	0.70	0.70	0.70
15-9	02/23	4.64	0.28	0.29	3.67	9.30	0.50	0.08	0.67	0.56	-	0.01	0.35	0.02	0.32	-	0.10	0.20	-	0.50	0.30	0.30
15-10	03/02	3.40	0.21	0.31	3.35	9.32	0.72	0.14	0.79	0.53	0.02	0.01	0.52	0.02	0.29	-	0.10	0.60	-	0.80	0.30	0.30
15-11	03/09	3.04	0.18	0.36	3.52	9.22	0.67	0.16	0.93	0.57	-	0.03	0.55	-	0.41	-	0.30	0.30	0.30	1.10	0.10	0.10
15-12	03/16	3.18	0.21	0.32	3.24	8.40	0.63	0.14	0.83	0.48	0.01	0.01	0.49	0.02	0.17	-	0.10	0.30	-	0.70	0.20	0.20
15-13	03/23	1.64	0.17	0.32	2.94	8.14	0.60	0.14	0.92	0.52	0.01	0.02	0.76	-	0.43	-	-	0.80	0.10	0.70	-	-
15-14	03/30	1.41	0.12	0.22	1.77	7.08	0.85	0.10	0.88	0.63	0.01	0.02	0.49	0.03	0.68	-	-	0.20	-	1.10	0.10	0.10
15-15	04/06	1.11	0.13	0.30	2.48	7.29	0.50	0.09	0.85	0.55	0.02	0.02	0.57	0.05	0.60	-	0.10	0.40	-	0.70	0.10	0.10
15-16	04/13	1.34	0.11	0.27	2.98	7.32	0.49	0.26	1.34	0.62	0.01	0.04	0.56	0.02	0.52	0.10	-	0.40	-	1.00	0.20	0.20
15-17	04/20	1.31	0.14	0.47	3.63	7.39	0.47	0.50	1.49	0.83	0.02	0.07	0.61	-	0.60	-	0.10	0.50	-	0.80	0.10	0.10
15-18	04/27	0.84	0.10	0.58	3.41	7.24	0.64	0.66	1.97	0.88	0.01	0.11	0.63	0.06	0.61	-	0.20	0.10	-	0.50	0.10	0.10
15-19	05/04	0.33	0.02	0.38	1.91	4.51	0.69	0.41	0.70	0.44	0.01	0.09	0.75	-	0.32	-	-	0.20	0.10	0.10	-	-
15-20	05/11	0.31	0.02	0.60	4.29	8.16	0.74	0.69	1.61	0.74	0.01	0.09	0.73	0.02	0.71	-	-	0.10	0.20	0.40	-	-
15-21	05/18	0.15	0.03	0.88	4.22	8.21	0.62	1.17	1.59	0.79	0.01	0.13	0.89	0.02	0.78	-	-	0.30	0.20	0.40	-	-
15-22	05/25	0.07	0.03	0.91	4.31	8.34	0.71	1.31	1.84	0.70	0.02	0.21	1.09	0.08	0.72	-	0.10	0.10	-	-	-	-
15-23	06/01	0.03	0.04	0.87	4.43	7.57	0.67	1.56	1.39	0.84	0.01	0.31	0.89	-	0.68	-	0.10	0.20	-	0.40	-	-
15-24	06/08	0.02	0.03	1.16	4.73	9.22	0.55	2.06	2.25	0.75	-	0.41	0.84	0.02	0.93	-	0.10	0.40	0.20	0.10	0.10	0.10
15-25	06/15	0.03	0.01	1.04	3.88	7.31	0.69	2.69	1.91	0.77	-	0.65	1.08	0.05	1.38	-	-	0.60	0.20	-	-	-
15-26	06/22	-	0.02	0.86	3.78	7.00	0.47	4.94	2.51	0.86	-	1.11	0.88	0.05	1.05	-	-	0.50	0.20	-	-	-
15-27	06/29	0.02	0.03	1.07	3.91	6.02	0.67	6.38	1.82	0.70	0.01	1.46	1.10	0.03	1.67	0.10	-	0.60	-	-	-	-
15-28	07/06	0.01	0.03	0.78	3.38	6.36	0.58	12.59	2.44	0.64	0.03	2.19	1.05	0.02	1.20	-	0.20	0.50	-	-	-	-
15-29	07/13	0.01	0.07	0.80	2.93	5.69	0.58	20.53	2.51	0.73	0.03	3.39	1.06	-	1.08	-	0.20	0.50	0.20	-	-	-
15-30	07/20	0.01	0.04	0.72	1.96	4.10	0.49	18.16	1.37	0.65	0.02	3.48	0.88	0.03	1.08	-	0.20	0.50	-	0.10	-	-
15-31	07/27	0.01	0.08	0.72	2.02	4.52	0.36	16.73	1.09	0.60	-	3.51	1.23	0.05	0.98	-	0.30	0.30	-	-	-	-
15-32	08/03	0.01	0.13	0.74	1.35	3.96	0.43	12.70	0.94	0.62	0.01	2.84	0.93	0.03	0.87	0.10	0.20	0.40	-	-	-	-
15-33	08/10	0.01	0.07	0.84	1.11	2.58	0.16	6.87	0.60	0.38	-	1.44	0.84	-	0.66	-	-	0.40	-	-	-	-
15-34	08/17	-	0.06	0.63	1.15	2.99	0.27	5.69	0.81	0.50	0.01	1.28	0.93	0.05	1.20	-	0.10	0.30	-	0.10	-	-
15-35	08/24	0.02	0.19	0.44	1.33	3.47	0.20	5.51	0.89	0.77	0.03	1.31	0.91	0.02	1.20	-	-	0.60	-	-	-	-
15-36	08/31	0.01	0.41	0.31	1.55	3.56	0.22	4.96	0.94	0.68	0.02	1.11	0.70	-	1.22	-	-	0.80	-	-	-	-
15-37	09/07	0.01	0.59	0.37	1.54	3.76	0.26	4.59	0.76	0.65	0.01	0.95	0.89	0.07	1.05	0.10	0.10	0.60	0.10	-	-	-
15-38	09/14	0.01	0.64	0.47	1.77	3.87	0.25	4.54	0.60	0.79	0.04	0.82	0.78	-	1.08	0.10	0.30	0.60	-	-	-	-
15-39	09/21	0.01	0.32	0.27	0.93	2.13	0.25	2.37	0.32	0.31	-	0.37	0.57	-	0.71	-	0.10	0.30	-	-	0.20	0.20
15-40	09/28	0.01	0.73	0.36	1.87	3.39	0.35	2.34	0.64	0.57	0.01	0.42	0.96	-	1.05	-	0.40	0.40	-	-	-	-
15-41	10/05	0.03	1.02	0.41	2.16	3.53	0.26	1.87	0.58	0.61	0.01	0.26	0.73	0.03	0.95	0.20	0.10	0.90	-	-	0.10	0.10
15-42	10/12	0.07	0.94	0.36	1.91	3.33	0.46	1.01	0.44	0.49	0.01	0.10	0.90	0.02	0.71	-	0.10	0.70	-	-	-	-
15-43	10/19	0.08	1.35	0.40	2.68	4.19	0.39	0.87	0.58	0.47	0.05	0.11	1.04	-	0.98	-	-	1.30	-	-	-	-
15-44	10/26	0.09	1.23	0.37	2.66	4.30	0.45	0.39	0.65	0.56	0.01	0.05	0.70	0.03	0.68	-	-	0.60	-	-	-	-
15-45	11/02	0.10	1.27	0.50	2.67	4.88	0.57	0.43	0.69	0.40	0.01	0.05	0.90	0.03	0.60	-	-	1.60	-	-	-	0.10
15-46	11/09	0.17	1.55	0.47	3.09	5.78	0.74	0.32	0.75	0.54	0.02	0.06	1.04	0.02	1.22	0.10	0.10	0.70	-	-	-	-
15-47	11/16	0.18	1.84	0.58	3.15	6.77	0.85	0.32	1.11	0.52	0.04	0.06	0.83	-	0.76	-	-	0.50	-	-	-	-
15-48	11/23	0.10	1.69	0.52	2.90	6.58	1.05	0.19	0.89	0.48	0.01	0.04	0.92	-	0.95	-	-	0.70	-	-	-	0.10
15-49	11/30	0.13	2.45	0.73	3.74	8.88	1.15	0.21	1.11	0.61	-	0.04	1.16	0.02	1.00	-	0.10	1.00	-	-	-	-
15-50	12/07	0.39	2.00	0.85	3.88	11.28	1.38	0.18	1.05	0.49	-	0.02	1.06	0.02	0.85	-	0.10	1.40	-	-	-	-
15-51	12/14	0.45	1.88	0.85	4.04	12.52	1.37	0.15	0.92	0.44	0.03	0.01	1.20	-	1.22	-	-	1.00	-	-	-	0.10
15-52	12/21	0.54	1.53	0.72	3.70	12.01	1.33	0.09	0.90	0.44	0.01	0.01	1.03	-	1.41	-	0.10	0.80	0.10	-	-	-
15-53	12/28	0.54	0.59	0.30	1.12	4.37	0.82	0.03	0.38	0.19	-	-	0.72	0.03	0.41	-	0.20	0.30	0.10	0.10	-	-
2015年計		170.19	29.20	27.94	147.45	350.55	32.06	149.44	55.50	30.69	0.59	29.12	40.65	1.10	41.05	0.90	4.60	27.00	2.20	11.40	14.60	14.60
2014年計		458.61	26.26	20.88	116.49	330.66	48.39	28.65	13.66	31.88	0.50	51.56	16.76	1.41	19.51	0.80	3.40	17.80	2.30	6.20	23.80	23.80
2015年/2014年比		0.4	1.1	1.3	1.3	1.1	0.7	5.2	4.1	1.0	1.2	0.6	2.4	0.8	2.1	1.1	1.4	1.5	1.0	1.8	0.6	0.6

※表中の定点当たり報告数は、小数第3位で四捨五入

数の最大値は第50週(12/7~13)の定点当たり1.38であった。報告患者の年齢は、4歳が最も多く4歳~7歳で全体の54.2%を占めた。

6) 手足口病

2015年第1週~53週の累積報告患者数は23,462例、定点当たり報告患者総数149.44で、前年と比べ大きく増加した。前年までと同様に夏期に一峰性の流行を示し、定点当たり報告数の最大値は第29週(7/13~19)の20.53で、大きな流行が観察された2013年の最大値を超えた。報告患者の年齢は、1歳が最も多く1歳~4歳で全体の71.6%を占めた。

7) 伝染性紅斑

2015年第1週~53週の累積報告患者数は8,714例、定点当たり報告患者総数55.50で、前年と比べ大きく増加した。前年から緩やかな増加が続いた定点当たり報告数は、年間を通じて多い状況が観察され、4月から7月にかけては大きな流行も観察された。定点当たり報告数の最大値2.51は第26週(6/22~28)及び第29週(7/13~19)に記録された。報告患者の年齢は、5歳が最も多く3歳~7歳で全体の68.1%を占めた。

8) 突発性発しん

2015年第1週~53週の累積報告患者数は4,818例、定点当たり報告患者総数は30.69で前年と同水準の報告があった。例年同様に年間を通して際立った報告数の増加は認められず、定点当たり報告数の最大値は第18週(4/27~5/3)の0.88であった。報告患者の年齢は、1歳が最も多く1歳以下が全体の90.0%を占めた。

9) 百日咳

2015年第1週~53週の累積報告患者数は93例、定点当たり報告患者総数0.59は前年を上回った。前年と同様に年間を通して際立った報告数の増加は認められず、定点当たり報告数の最大値は第43週(10/19~25)の0.05であった。報告患者の年齢は、10歳未満が47.3%、20歳以上が29.0%、10歳代が23.7%で、10歳未満では6ヵ月未満が最も多かった。

10) ヘルパンギーナ

2015年第1週~53週の累積報告患者数は4,572例、定点当たり報告患者総数29.12は前年と比べ大きく減少した。夏期をピークとする一峰性の流行を示し、定点当たり報告数の最大値は第31週(7/27~8/2)の3.51で過去5年では2013年と同等に夏期のピークは低い水準であった。報告患者の年齢は、1歳が最も多く1歳~4歳で全体の73.6%を占めた。

11) 流行性耳下腺炎

2015年第1週~53週の累積報告患者数は6,382例、定点

当たり報告患者総数40.65は非流行年であった前年と比べ大きく増加した。定点当たり報告数は2月から5月にかけて増加し、その後は年末まで増減を繰り返す状況が続いた。定点当たり報告数の最大値は、第31週(7/27~8/2)の1.23であった。報告患者の年齢は、5歳が最も多く4歳~7歳で全体の55.6%を占めた。

(3)眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

2015年第1週~53週の累積報告患者数は44例、定点当たり報告患者総数1.10は前年を下回った。年間を通して報告があり、定点当たり報告数の最大値は第22週(5/25~31)の0.08であった。報告患者の年齢は、20歳以上が全体の56.8%を占め、20歳未満では4歳が最も多かった。

2) 流行性角結膜炎

2015年第1週~53週の累積報告患者数は1,642例、定点当たり報告患者総数41.05は前年と比べ大きく増加した。定点当たり報告数は4月以降増加し、過去5年では観察されなかった夏期流行が認められた。報告数はその後も増減を繰り返し、年末まで多い状況が続いた。定点当たり報告数の最大値は、第27週(6/29~7/5)の1.67であった。報告患者の年齢は、20歳以上が全体の62.7%を占めた。

(4)基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

2015年第1週~53週の累積報告患者数は9例、定点当たり報告患者総数0.90は前年を上回った。報告は散発的で、定点当たり報告数の最大値は第41週(10/5~11)の0.20であった。報告患者の年齢は、0歳及び70歳以上が各3例、5~9歳、15~19歳、65~69歳が各1例であった。

2) 無菌性髄膜炎

2015年第1週~53週の累積報告患者数は46例、定点当たり報告患者総数4.60で、前年を上回った。前年と同様に年間を通して報告があり、際立った流行は観察されなかった。定点当たり報告数の最大値は第40週(9/28~10/4)の0.40であった。報告患者の年齢は、10歳未満が全体の32.6%を占めた。

3) マイコプラズマ肺炎

2015年の第1週~53週の累積報告患者数は270例、定点当たり報告患者総数27.00は前年を上回った。報告数の際立った増加は認められなかったが、年間の緩やかな増加が観察された。定点当たり報告数の最大値は、第45週(11/2~8)の1.60であった。報告患者の年齢は、10歳未満が53.3%、10歳代が26.3%を占めた。

4) クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2015年第1週~53週の累積報告患者数は22例、定点当

たり報告患者総数2.20は前年と同水準の報告があった。患者の報告は年間を通して散発的であった。報告患者の年齢は、10歳未満が59.1%、10歳代が31.8%を占めた。

5) 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

2013年第42週から基幹定点報告対象に加わり、2015年第1週～53週の累積報告患者数は114例、定点当たり報告患者総数11.40で、前年を大きく上回った。定点当たり報告数は前年より早い2月から増加し、5月まで多い状況が続いた。定点当たり報告数の最大値は、第11週(3/9～15)及び第14週(3/30～4/5)の1.10であった。報告患者の年齢は、10歳未満が全体の94.7%を占めた。

6) インフルエンザ(入院)

2015年第1週～53週の累積報告患者数は146例、定点当たり報告患者総数14.60は前年を下回った。定点当たり報告数の最大値は、内科・小児科定点報告インフルエンザと同時期の第2週(1/5～11)の3.40で、年末には報告数の増加は観察されなかった。報告患者の年齢は、70歳以上が全体の60.3%を占めた。

7) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2015年1月～12月の累積報告患者数は85例、定点当たり報告患者総数8.50は前年を下回った。報告は年間を通して確認されたが、2008年以降減少傾向にある。定点当たり報告数の最大値は9月の1.30であった。報告患者の年齢は、70歳以上が全体の67.1%を占めた。

8) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2015年1月～12月の累積報告患者数は7例、定点当たり報告患者総数0.70は前年を下回った。報告は1月に3例、4月、6月、8月、11月に各1例であった。報告患者の年齢は、60～64歳が1例、70歳以上が6例であった。

9) 薬剤耐性緑膿菌感染症

2015年1月～12月の累積報告患者数は3例、定点当たり報告患者総数0.30は前年を上回った。9月に2例、11月に1例の報告があり、報告患者の年齢は、60～64歳が1例、70歳以上が2例であった。

(5)性感染症定点把握対象疾患の動向

1) 性器クラミジア感染症

2015年1月～12月の累積報告患者数は、男635例、女805例の計1,440例で、定点当たり報告患者総数25.17は前年を下回った。定点当たり報告数の最大値は9月の2.38であった。報告患者の年齢は、男で20歳代が41.9%を占め、女では20歳代が54.7%であった。

2) 性器ヘルペスウイルス感染症

2015年1月～12月の累積報告患者数は、男129例、女298例の計427例、定点当たり報告患者総数7.47は前年を下回った。定点当たり報告数の最大値は2月の0.86であった。報告患者の年齢は、男で20歳代が24.0%、30歳代が33.3%、女では20歳代が34.2%、30歳代が22.8%であった。

3) 尖圭コンジローマ

2015年1月～12月の累積報告患者数は男122例、女118例の計240例、定点当たり報告患者総数4.20は前年を下回った。定点当たり報告数の最大値は1月の0.56であった。報告患者の年齢は、男で20歳代が29.5%、30歳代が32.0%、女では20歳代が44.1%、30歳代が25.4%であった。

4) 淋菌感染症

2015年1月～12月の累積報告患者数は男398例、女86例の計484例、定点当たり報告患者総数8.46は前年を下回った。定点当たり報告数の最大値は1月の0.98であった。報告患者の年齢は、男で20歳代が39.9%、30歳代が28.4%、女では20歳代が38.4%、30歳代が25.6%であった。

表4 定点対象疾患の推移(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

月別	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	9	0.90	3	0.30	-	-	126	2.29	22	0.40	31	0.56	54	0.98
2月	5	0.50	-	-	-	-	100	1.75	49	0.86	26	0.46	36	0.63
3月	4	0.40	-	-	-	-	127	2.31	28	0.51	23	0.42	47	0.85
4月	5	0.50	1	0.10	-	-	103	1.78	36	0.62	10	0.17	43	0.74
5月	7	0.70	-	-	-	-	126	2.14	40	0.68	30	0.51	37	0.63
6月	7	0.70	1	0.10	-	-	124	2.14	41	0.71	27	0.47	45	0.78
7月	10	1.00	-	-	-	-	134	2.31	37	0.64	7	0.12	42	0.72
8月	7	0.70	1	0.10	-	-	114	1.97	31	0.53	18	0.31	45	0.78
9月	13	1.30	-	-	2	0.20	138	2.38	43	0.74	16	0.28	43	0.74
10月	5	0.50	-	-	-	-	119	2.09	38	0.67	17	0.30	31	0.54
11月	10	1.00	1	0.10	1	0.10	123	2.16	31	0.54	19	0.33	26	0.46
12月	3	0.30	-	-	-	-	106	1.86	31	0.54	16	0.28	35	0.61
2015年 計	85	8.50	7	0.70	3	0.30	1,440	25.17	427	7.47	240	4.20	484	8.46
2014年 計	105	10.50	10	1.00	1	0.10	1,566	27.96	499	8.91	338	6.04	629	11.23
2015年/2014年比	0.8	0.8	0.7	0.7	3.0	3.0	0.9	0.9	0.9	0.8	0.7	0.7	0.8	0.8

(-:0)

(6)感染症法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省で定める疑似症

2015 年埼玉県における摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く)若しくは発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く)の二つの症候群の届出はなかった。

まとめ

2015 年の感染症発生動向調査に基づく患者届出について、各疾患別にその動向をまとめた。全数把握対象疾患の二類感染症は、結核 1,273 例の届出があり、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9)の届出はなかった。

三類感染症は、細菌性赤痢 6 例、腸管出血性大腸菌感染症 167 例、腸チフス 1 例、パラチフス 1 例の届出があった。コレラの届出は前年に引き続きなかった。

四類感染症は、E 型肝炎、A 型肝炎、オウム病、チクングニア熱、デング熱、マラリア、レジオネラ症の計 7 疾患の届出があり、そのうち A 型肝炎、レジオネラ症の届出数は前年を大きく上回った。レジオネラ症の届出は 7 月から 10 月にかけて多く、診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が大多数を占めた。感染地域が共通であると疑われたレジオネラ症の事例は確認されなかった。

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎(E 型・A 型を除く)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、急性脳炎、C J D、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、A I D S、ジアルジア症、侵襲性インフルエ

ンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘(入院例)、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、風しん、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症の計 19 疾患の届出があった。そのうちカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、急性脳炎、C J D、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、ジアルジア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘(入院例)、梅毒、播種性クリプトコックス症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症の 11 疾患は前年の届出数を上回った。前年の届出数を大きく上回った梅毒では、女の割合が増加した。また、顕症梅毒は男で 72.8%、女で 59.5%を占め、無症状病原体保有者の割合を上回った。

定点把握疾患では、インフルエンザは観察対象期間(2015 年第 1 週～第 53 週)に流行のピークが観察されなかったことから、前年と比べ大きく減少した。小児科定点報告疾患では、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、手足口病、伝染性紅斑、百日咳、流行性耳下腺炎の報告患者数が前年を上回った。眼科定点報告疾患では、流行性角結膜炎が前年を上回り、過去 5 年では観察されなかった夏期流行が認められた。

基幹定点週単位報告疾患では、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎(ロタウイルス)の報告患者数が前年を上回った。インフルエンザ(入院患者)は、内科・小児科定点報告のインフルエンザと同様に年末の報告数の増加は観察されなかった。月単位報告疾患のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告患者数は前年を下回り、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告は 3 例で、前年の報告数を上回った。

性感染症定点把握対象疾患では、尖圭コンジローマの報告数が前年に比べ減少し、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症では、僅かな減少に留まった。

表 5 性年齢階級別報告数(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

年齢	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-9歳	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
10-14歳	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
15-19歳	1	-	-	-	-	-	43	108	-	18	2	10	24	14
20-24歳	-	-	-	-	-	-	131	250	10	54	17	34	83	18
25-29歳	1	-	-	-	-	-	135	190	21	48	19	18	76	15
30-34歳	-	1	-	-	-	-	104	107	24	43	20	14	62	12
35-39歳	-	1	-	-	-	-	86	50	19	24	19	16	51	10
40-44歳	1	1	-	-	-	-	59	64	14	35	17	9	43	10
45-49歳	-	-	-	-	-	-	40	26	11	12	9	9	30	2
50-54歳	-	-	-	-	-	-	15	8	7	15	8	5	16	4
55-59歳	1	-	-	-	-	-	12	-	9	16	3	1	4	1
60-64歳	3	-	-	1	-	1	5	-	4	6	2	-	4	-
65-69歳	5	2	-	-	-	-	5	1	4	14	3	-	4	-
70歳～	42	15	1	5	1	1	-	-	6	13	2	2	1	-
合計	61	24	1	6	1	2	635	805	129	298	122	118	398	86
男女比	2.54	1.00	0.17	1.00	0.50	1.00	0.79	1.00	0.43	1.00	1.03	1.00	4.63	1.00

(-:0)